

あいち病害虫情報 最新情報

平成30年 4月16日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ムギ類の病気

ムギ類赤かび病感染予防の防除適期は、開花期です。天候の推移に留意して、生育状況に応じて適宜防除を進めましょう。詳細は、本日発表の「ムギ類赤かび病情報第1号」を参照してください。

コムギ赤さび病は、4月中旬時点で調査ほ場での発生を確認していません。今後の気象の変化に注意し、発生を確認した場合は、速やかに薬剤防除しましょう。

イネ縞葉枯病対策

越冬世代のヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルスの保毒虫率は低い状況ですが、あきたこまちやコシヒカリなど本病に対して感受性の品種を移植栽培する場合は、生育初期の本病の感染を防ぐため、育苗箱施薬等でヒメトビウンカを防除しましょう。

水稻の育苗期防除

普通期栽培のは種作業が始まります。次の1～7に注意して適正な種子消毒に努めましょう。

- 1 細菌性病害にも効果のあるテクリードCフロアブルなどを用いて、種子消毒を行いましょう。
- 2 浸漬処理法の場合、薬液温度は15～20℃とし、処理濃度と時間を守り、処理後、種子に薬剤を十分に付着させるためによく風乾しましょう。
- 3 温湯種子消毒の場合、適切な処理温度、時間（例：60℃、10分）を守りましょう。
- 4 高温での浸種や長時間催芽は細菌感染を助長するので避けましょう。
- 5 出芽温度は30～32℃を守りましょう。
- 6 種子消毒後の廃液は、適切に処理しましょう。浸漬処理後の廃液処理が困難な場合には、種子粉衣（湿粉衣法）や塗沫法などの消毒方法に切り替えましょう。また、エコホープD Jなどの微生物農薬や温湯種子消毒を利用する方法もあります。ただし、微生物農薬による種子消毒は、薬液の温度が10℃以下では効果が劣りますので、処理温度に注意しましょう。
- 7 種子消毒後は病原菌の汚染がないよう管理しましょう。

果樹カメムシ類の多飛来に注意！

果樹カメムシ（チャバネアオカメムシ）の飛来数は、越冬成虫量からおおよそ予測できます。今年のチャバネアオカメムシの越冬成虫量は、やや多い状況です。また、春先の気温が高めに推移したこともあり、チャバネアオカメムシのフェロモントラップには、4月第1半旬からすでに誘殺されています。今後、果樹カメムシ類は、夜温が上昇すると活動が活発になり、ウメなどへの飛来が増加すると予想されますので、園内の飛来状況に注意し、防除を実施しましょう。詳細は、4月3日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報

第1号」を参照してください。

ナシヒメシンクイの発生に注意！

ナシヒメシンクイの越冬世代成虫のフェロモントラップによる誘殺数は、春先の気温が高めに推移したため、発生時期が平年よりやや早い状況です。また、発生量も多い状況で、注意が必要です。越冬世代成虫は展葉したモモの葉に産卵し、ふ化した幼虫が新梢に食入して、芯折れを引き起こすので、フェロモントラップによる誘殺状況を参考に防除適期を逃さないように防除しましょう。

落葉果樹の病害虫

ナシの黒星病は、4月上旬の発生量はやや多い状況で、多発しているほ場が確認されました。発生状況に注意し、防除を徹底しましょう。また、昨年発生が多かったほ場では、特に注意しましょう。また、ナシ赤星病の感染時期を迎えています。近年発生が多くなっているため、黒星病とともに防除しましょう。

春先の気温が高めに推移したため、モモのカイガラムシ類の発生が前年に比べ、早くなっています。クワシロカイガラムシの防除適期予測日は5月上旬です。各地点の予測日等は本日発表の「モモのカイガラムシ類情報」を参考にしてください。今後も気温が平年に比べ高い状況が続くと見込まれており、さらに防除適期が早まることが予想されます。ほ場での発生状況に注意し、適期に防除しましょう。

ウイルス媒介虫を施設外に出さないようにしましょう！

トマト黄化葉巻病やトマト黄化病、キュウリ黄化えそ病の防除対策の基本は、「ウイルス媒介虫を施設内に入れない」、「施設内で増やさない」、「施設外に出さない」の3つです。

収穫期間中はウイルス媒介虫であるタバココナジラミ（トマト黄化葉巻病、トマト黄化病）やオンシツコナジラミ（トマト黄化病）、ミナミキイロアザミウマ（キュウリ黄化えそ病）の防除を徹底しましょう。なお、次作の感染源を減らすため、収穫終了後は残さを持ち出す前に施設を密閉して、ウイルス媒介虫を死滅させましょう。

フェロモントラップなどの各種調査データは、HP「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

- 農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820